



2009年 第9回
M100プロジェクト始動 WITH 松本政経塾
テーマ：「まつもとにおけるビジネスへの思い」
講師：メインパーソナリティ／林 幸一氏 新三よし／伊藤真佐之氏
知新堂／横沢敏氏

開催日時	平成21年9月6日（日）	13時00分～14時30分	
開催場所	松本中央公民館（Mウイング） 4-1教室	参加者	35名
内容	<p>「まつもと市民応援団」がM100プロジェクトや、各種商店や飲食店を応援していこうというコンセプト上記の4つのフェーズにて体现できる勉強会として開催しました。</p> <p>【パート1】 1997年には2915店舗を構えていた松本中心商店街。2007年には2409点と17.4%の減少となっている。また各種テナント店舗も4年連続の減少となっている。そして各商店の大きな課題として、後継者不足（店舗の55.9%が後継者がいないと答えている）も挙げられる。現在抱える課題を今一度整理し、商店の皆様の現状を共有したいと考える。（担当：塾生：酒井）</p> <p>【パート2】 各種課題を共有した後、実際に店舗経営を営む方々とテーブルディスカッションを行う。昔と今の違いや、どのような視点でお店を営んでいるのか、また実際にどのようなお客様を大切にされているのか、インタビューを行う。特に、私たち松本政経塾は、松本市民である。松本市民と松本の商店の皆様が共にどのような活動をしていけばよいか、ヒントを得たいと思う。（担当：塾生：古畑）</p> <p>【パート3】 他都市事例を研究発表する。特に「市民応援団」式の商店街活性化を図っている都市に注目し、どのような活動をしているか発表する。M100プロジェクトのもう一つの効果、松本市民が松本の商店街を盛り上げる、言葉では簡単だが、実際にどのように行っているかを調べることは、今後の活動に大きく波及するだろう。（担当：塾生：浅原）</p> <p>【パート4】 松本政経塾のメンバーが考えたM100プロジェクトの新しい提案（担当：塾生：北原）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MMFとのジョイントによる、楽都松本「どこでも出張団」 2. 学生の考える松本巡り「デートをするなら、こんなM100ルート」 「反抗期だけど、父母と行くM100ルート」 3. M100店舗で行う婚活パーティ 4. 市民が探るM100調査「こんなところ改善してみれば・・・？」 5. M100店舗で「老後相談」 6. M100 ベンチャーキャピタル「新しいお店に支援を・・・」 		
レジュメ	発表資料		
その他 当日の様子	【当日の様子】		



新まつもと物語の林勇次代表より今回のM100プロジェクトの目的や、今日の勉強会の趣旨についての説明を頂きました。



現在松本の中心商店街の抱える課題をまずは整理。

- ★国の商業調査によると、松本市では1997年約3000店が、2007年には約2400店。10年で17.4%も減少しました。
- ★一方で郊外の大型店が増加。(売り場面積1.25倍)
- ★中心商店街の空洞化の原因にもなっている後継者不足です。
- ★中信地方では、55.9%が後継者がいない。等々



メンバーコート／林 幸一氏 新三よし／伊藤真佐之氏
知新堂／横沢敏氏

3人のM100参加者による「まつもとにおけるビジネスの思い」を語って頂きました。非常にお店を愛し、地域を愛するお話をして頂きました



実際に「まちづくり」を目的に小店舗同士が集まり、バリューカードを活用している事例として 亀岡・南丹地域のバリューカードの紹介をしました。
<http://value-card.co.jp/top/top.htm>

約10万人都市で展開される「コミュニティビジネス」もモデルケースとして参考になるのではないのでしょうか？



松本政経塾から、M100プロジェクトへの提案をさせて頂きました。
コンセプトは「松本市民応援団」。松本の市民と松本の商店を近づけることによって、活性化をはかろうというものです。これは商業における「地産地消」運動です。

そして、M100の参加されている商店の皆様が、「市民を幸せにする 人生の演出劇場」というアイデアもご提案しました。